

## 取組の概要

- ◆ 長年にわたる各種取組により既存公共交通のみならず別モードを絡めた方策で、市民の移動の足を確保し続けた。
- ◆ 市の中心部では、**民間バス路線とコミュニティバスを連絡し、バス交通ネットワークを体系的に整備**することで、公共施設・医療施設などへのアクセスを向上。  
また、観光情報から鉄道やバスの経路検索等が可能な「モックルMaaS」を導入。
- ◆ バスの走らない楠ヶ丘地域では、公共交通不便地域解消のために地域と連携した形で乗合タクシー「くすまる」を運行
- ◆ 石見川地域等では令和3年度末で路線バスが廃線に。通学の足を確保するため、事業者協力型の公共ライドシェア「楠坊」を運行。**スクールバス機能を持ちつつ地域住民も乗車可能にすることで地域住民の移動手段も確保。**



## 1. 多様な主体の実質的参画

- ◆ 市が主体となって各地域で地域住民（自治会含む）、事業者を巻き込みながら、公共交通網の再編に取り組んでいる。
- ◆ 河内長野市と共創パートナーである南海電気鉄道／南海バス／社会福祉協議会が一体となり、地域住民の路線バス・鉄道利用のため、車内広告・ポスター掲出や社会福祉協議会での説明会、スマホ教室の実施等により利用増進を行っている。

## 2. 創意工夫

- ◆ 市内では**南北の交通が基軸となっていたが、今後の公共交通網再構築のため、令和6年度、市の賑わい拠点を經由する東西の新たなルートでのコミュニティバス実証運行**を実施。**南北移動の鉄道及び東西移動のバス両モードでの移動需要を創出。**
- ◆ 「モックルMaaS」では、既存市バス1日フリー乗車券のデジタル化やGPS活用のデジタルスタンプラリーの実施により市内周遊を促している。

## 3. 自立性・継続性

- ◆ 「くすまる」はコロナ後も収支率50%超を維持しており、**導入当初から高い収支率を維持した運行を継続**できている。
- ◆ コミュニティバスに加えて、実証実験において、鉄道駅に乗り入れることに対するニーズの確認ができたことから、一部路線の変更・延伸等により機能強化を図っていく。加えて、今後のまちづくりに合わせ、実証実験を検討している。

